

大安寺報

名句・名言に学ぶ

「禍福は糾^{かふく}える繩^{あざな}の如し」

出典 『漢書』

「幸福」「不幸」は私たち人間にとって永遠のテーマ。テレビ・新聞・雑誌には古い企画があふれ、パワーストーンなどの縁起物が人気を集めているのが、何よりのあらわれではないでしょうか。

ことを複雑にしているのは、「幸福」だと思っていたことが、一転「不幸」に転じることがあること。「良縁」だと思っていた人とめぐり逢いが、後々「悪縁」だったと感じることもあります。逆に、「不幸」だと思っていたことが、後々になって「幸福」であったと感じるようになることもあります。ことほど左様に「幸福」「不幸」は複雑なものです。

冒頭のことばの「禍」は「災禍」、「福」は「幸福」を意味し、その両者はまるでよりあわせた縄のように表裏一体であることを表しています。表裏一体であるからこそ、一時のそれに一喜一憂すべきでないという、このいにしえからの戒めのことばは、時代を超えた普遍性をもっています。

さらにこのことばを、仏教的に解釈してみましよう。

仏教では、物事のあり方を「諸行無常」ととらえ、全ての物事は、刻々と変化しており、永遠不変ではないと考えます。その視点からすれば一時「幸福」であった状態が、条件のかけあわせによって「不幸」に転じることは十分考えられます。ただ、ここで大事なことはその逆もまた然りであることです。

そしてさらに「如実知見^{にょじつちけん}」という、物事を偏見や先入観を持たずにありのままに見るといふ仏のまなざしで見れば、多くの場合の「幸福」「不幸」というとらえ方は、私たち人間の「狭い見方」そして「短い時間軸」でのとらえ方であるということに気づかされます。

「不幸」の只中にいるとお悩みの方にお伝えしたいのです。その「不幸」は、さまざまな条件のかけ合わせにより、たまたま引き起こされたものであり、あなたがその責めを全て負うべきものではありません。そしてまた、その「不幸」は、「幸福」に転じる可能性を大きくはらんでいます。

事態が「幸福」に転じるまで、一喜一憂せず、できる努力を怠らない。それが「幸福」につながる道なのです。

合掌



仏事

Q & A

第二十二回

Q. 「忌明けまで、それ以外のご先祖様をご供養してはいけないのですか？」

A. どうぞ、位牌堂・お仏壇でこれまで通りにご供養してさしあげてください。

まれに、忌明けまでは位牌堂やお仏壇でその他の亡き方をご供養してはいけないという、家のしきたりがある場合がありますが、まずは、亡き方を優先してご供養してさしあげた方がよいという「思いやりの心」がその背景にあるのではと考えられます。

どうぞ、分け隔てのない心で、亡き方全てをご供養してさしあげてください。

当寺の最新情報をチェック!

■大安寺ホームページ

<http://www.daijanji.jp>

■大安寺携帯サイト

<http://keitai.daijanji.jp>

twitter

@daijanji2010

※行事予定などをお知らせします。

f

facebook

<http://www.facebook.com/daijanji>

大安寺の宗旨：曹洞宗 本山：福井県永平寺・神奈川県總持寺 高祖：道元禪師 太祖：瑩山禪師
ご本尊：釈迦牟尼仏 本尊唱名：南無釈迦牟尼仏（なむしゃかむにぶつ）